

研修会

佐倉の里山・畔田の夏を感じる

林 信子（船橋市）

日 時：7月18日（土）9：00～12：00

場 所：佐倉市下志津 畔田谷津

参加者：研修会 31名（レクチャ 29名＋非会員 2名）、ミニ観察会 54名

講 師：坂本文雄氏（畔田谷津の生命を見守る会） 研修会担当：佐藤 一枝

台風の影響が心配でしたが晴天に恵まれ、集合場所ではトンボの大群のお出迎え、耳にはニイニイゼミの鳴き声、自然度の高さに期待が膨らみます。“カエルを掴んで飛ぶ迫力のあるサシバ”の写真入りの資料をいただき、お話を伺いました。佐倉西部自然公園の計画地だそうで、里山・谷津の緑が広がる広大な地域です。上手線川が流れ、生物相も豊かで、「貴重種も有るけど、普通種が当たり前に見られる地」として保全していきたいとのこと。

先程のトンボはウスバキトンボ、「南西諸島等で生まれ、世代交代を繰り返しながら渡ってくる、夏の甲子園で舞っているのはこれ、お盆に来るので精霊トンボとも呼ばれている。今年は一か月程早く来訪、オニヤンマのように縦に止まります。」と丁寧な説明を受ける。

五反目谷津を進むとキツネノカミソリが、早やあの綺麗なオレンジの花を咲かせています。メタリックブルーのハグロトンボ、ノゴリクワガタ、スズメバチ、サシバの羽根も発見。モンキアゲハがクサギの花に来ています。その道はヤブミョウガの花が一面に咲き乱れ、ムラサキニガナ、トモエソウ、大きな実になったウラシマソウなどが見られます。一本に30個近く見事な花を付けているヤマユリ、風に揺れてT字にぶら下がった葯から、粘る花粉を出し、蝶の体につけて送粉してもらうという仕掛けになっているそうです。また近くの杉の根元には秋にクロヤツシロランが見られるそう。そして一角にクマガイソウ、今年は9個の花が咲いたそうで、一部竹林を整備し、クマガイソウの保護地を作っています。来年はもっと咲くといいですね。その先には、“ちゃぶくばあさん”と名の付いたエノキがデヘンと居座っています。その緑の元で一休み。

車道を渡って別のゾーンに移動です。

ヨシ・ガマ・カササゲ群落を抜けると休耕田にサクラオグルマ (*Inula yosezatoana* Makino) が満開です。佐倉で発見され、種小名には発見者の与世里盛春氏と牧野博士の名前がついている事、都川沿いにあるサワオグルマはキク科キオン属、サクラオグルマはオグルマ属でオグルマとホソバオグルマの自然交雑種と考えられている事、違いは赤褐色を帯びた茎、この貴重種を大切に保護している事など伺いました。



畔田谷津ではダイサギ、アマサギ、アオサギが観られ、生き物の田んぼを作り、ヤゴ、カエルの住処も確保。クロメンガタスズメ、ビロードスズメの幼虫、サガミランにも遭遇。

最後のレクチャーでは、アズマネザサは林床を覆つくし、光を必要とする植物の生育が阻害される厄介者と思っていましたが、刈りすぎてウグイスの数が減ってしまった話を伺いました。過管理により、その中で生きるウグイスやそこに生息する生き物の環境を奪う結果になってしまったようです。いろいろな環境を維持することが大切な事なのでしょう。ここでは色々な団体の方が活動されているようです。ここでしか出来ない多様な環境を維持した、自然が満喫できる場所になるのを期待しています。